

みどりの絆

緑崇流吟道緑水吟詠会会報

令和五年 四月

2023

NO.59

総本部会報編集局発行

緑崇流事務所

〒630-8135

奈良市大安寺西1-334-3

TEL/FAX.0742-35-6719

E-mail/m-net@mfv.biglobe.ne.jp

所感



宗家 箕輪 緑崇

目に映るものすべてが眩い始まりの季節となりました。

平素より緑崇流吟道緑水吟詠会の活動に深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの流行から三年が経ち、止まっていた社会がやっ

と動き出し少しづつ日常が戻りつつありますが、皆さまにおかれましては、ますますのご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、世の中は長引く戦争や経験したことのない災害や終わることのない新型コロナウイルスなど世界情勢は過酷な状況であると言えます。そんな中で、今は歴史的な時代の真ただ中にいるような気がしております。様々なイベントや生活など制限がある中であっても、変わらず学びを忘れることなく、詩吟と真摯に向き合い活躍されている会員の皆さま方全員に重ねて心より感謝申し上げます次第でございます。

芸術文化スポーツは決して不要不急なものではありません。改めて日々の日常や人生に必須だと痛感しておりますが、気の滅入る話が多い故、再来年の日本国際博覧会（大阪・関西万博）開幕に期待も高まってまいりませし、未来社会を体験できる、わく

わくするような万博は世界にどんなメッセージを届けてくれるのでしょうか。国内外問わず日本が再び注目される起爆剤となることを願ってやみません。

そして何より、万博と同じ年に、緑崇流吟道緑水吟詠会創立五十周年記念大会の開催を予定しております。今後、会創立五十周年を、皆さまと共に「限りなき前進」という理念のもと伝統を絶やさないという思いで、真つ向真剣勝負で進んでまいりますので、今後も引き続き倍旧のご厚情を賜りたく切にお願い申し上げます、これからの皆さまのご活躍とご健勝を心から祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

令和五年四月吉日

（自宅書齋にて）



Facebook 移行に関するお知らせ

これまで長い間、緑崇流吟道緑水吟詠会は HP での発信を行っておりましたが、本当の意味で皆さまとやり取りができるよう発展的に Facebook へと移行いたしました。何よりも会員の皆さまとリアルな繋がりがあった上で、それをさらに活発化させるために Facebook を活用し礼と節をわきまえ、互いをリスペクトし合える素敵な吟道を謳歌頂けると幸いです。

 Facebook ページにアクセス



令和4年度昇段テスト並びにコンクール大会

高槻現代劇場 令和4年4月10日(日)

二級の部 優勝

曙支部◇法貴博光



この度は、昇段テスト二級の部で優勝出来たことを大変嬉しく思います。

優勝という二文字は、努力の基礎に先生方からご指導頂いた結果であると同時に、際立って今後の詩吟に向き合う姿勢を、より一層引き締め

るものであります。思い起こせば、詩吟の門を叩こうと思った切っ掛けは、先人の漢詩と心を学ぶことに始まったのであり、宮原緑晃先生の手解きにより、詩吟の素晴らしさに魅了されてしまったのであります。

詩吟の奥深さは、尽きることのない人間修養に通ずるものがあり、奥義たるや『初心忘るべからず』を心に戒め、自身の詩吟と共に自己研磨にて、義のため道のため精進致し

宮原緑晃先生を始め、曙支部の先輩方に心より感謝申し上げます。

今後も公私共々御指導頂きます様にこの場をお借りしてお願い致します。

一級の部 優勝

十三北野支部◇山本勝彦



この度は、大変名誉な一級の部で優勝出来た事、大変うれしく思っています。優勝旗をお預かりさせていただきます。歴代の優勝者のお名前のペナントを拝見させていただきました。多くの先輩のお名前があり、感激のあまり身震いをしました。

また、ラッキーな飛び級により、二段になりました。二段の部も、がんばって優勝を取りに行きたいと思

一日の目標

- 一日一回の排便をし
- 一日三回吟じる
- 一日十人の人と会う
- 一日百文字を書く
- 一日千文字を読む
- 一日一万歩を歩く

渡辺緑翔先生のお教えを日々守って詩吟道に精進したいと思っております。

よろしく、ご指導ご鞭撻ください。

二段の部 優勝

玉造支部◇吉田如男



た津村緑秀先生に感謝しております。また、いつも会合では、諸先輩方に温かいお言葉を掛けていただきホッとしています。

そして、毎回皆様の吟を聞きその歌声に聞きほれております。緑崇流の皆さんを見ていると「吟は厳しく、会は楽しく」を体現されているといつも思います。これまで私自身の転勤やコロナの時世で詩吟から遠ざかる時期もありましたが、続けられて良かったです。

最後に、私の名である如男から如の文字に慈しむという意味の恕という文字を当て「恕秀」と書く雅号まで戴き本当に身の引き締まる思いでございます。この名に負けぬ姿勢で今後は健康維持も含め、緑崇流の一員として、この賞を励みに精進して参りたいと思います。

今後とも末永く皆様のご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

この度は過分な賞を戴き、ありがとうございます。田脇枝秀さんの紹介から始まった詩吟の世界ですが、よくわからないまま声を張り上げるだけの私を辛抱強く指導して下さい



三段の部 優勝

玉造支部◇安岡節也



昨年の昇段テストの大会で、最後の最後に誤読で失格。今年は、最後まで失敗をしないことが目標の私が「三段優勝」の栄誉をいただき、有難く嬉しく思っております。

振り返りますと、昇段テストの二週間前、津村緑秀先生から「音読を百回し、最高と思う吟を録音し送りなさい」その他、ここでは書ききれない厳しいお言葉に、「先生、怖い！」昇段テスト一週間前、緑秀先生から練習方法とコツコツと詩吟に向き合う大切さを説くお手紙をいただきました。また当時、世界フィギュアで優勝した宇野昌磨選手の「コーチが納得する演技をしたい」というコメントに「宇野選手のコーチみたいになりたい！」と緑秀先生がお気持ちを重ねられました。

コロナ禍あらゆる手段で、真剣にご指導くださる緑秀先生に対し、私の詩吟に向かう姿勢のなんと愚かなこと！

この度、津村緑秀先生の秀の一字をいただき「節秀」の雅号も頂戴しました。先生に「ガッツポーズ」を沢山プレゼントできるようしっかりと精進いたします！

今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

特別表彰 最高齢賞を戴いて

クローバー支部◇山田智一



此度は最高齢の特別賞を戴き、誠に有難うございました。

徒に馬齢を重ねる、齢八十八歳米寿を迎えました。

私と詩吟との出会いは懇意にしていた予防医学の先生より「歳を取ると腹の底から大きな声を出すことが内臓諸器官を刺激し健康に極めて良い。従って詩吟か民謡をやったほうが良い。」との説を聞いており意識はしていましたが、中々その機会がなかったのです。偶々、箕面で 故辻緑樟先生を知る機会に恵まれ、遅きに失した感がありました。八十の手習いで八十二歳から始めました。

辻先生の厳しい中にも温情溢れるご指導に魅了されて来ましたが、残念にも突然の病で急逝され残念至極でありましたが、後を引き受けて下さった木下緑峰先生、時々ご来駕下さる松本緑遙先生のご指導の下、上達の遅い年寄りにも懇切丁寧にご指導頂き感謝の極みです。

これからも体力維持に努め、声が出る限り詩吟道に進進したいと思っております。今後共よろしくご指導の程お願い申し上げます。



令和4年度昇段テスト
並びにコンクール大会成績

優 勝 渡部 玲子	優 勝 法貴 博光	優 勝 山本 勝彦	優 勝 安岡 節也	優 勝 神崎 雅翔	優 勝 田脇 枝秀	準々優勝 森井 諤翔	四位 小柳 俊晃
優 勝 石川 緑誓	準優勝 福本 緑邦	四位 片山 緑都	優 勝 福永 緑獅	準優勝 島田 緑聲	最高齢者 山田 智一		
優 勝 吉田 如男 <small>ゆきお</small>	優 勝 西岡 緑優	五位 岡本 緑洋	準優勝 加賀山 緑豊	四位 島田 緑皓			
準優勝 平山 維重 <small>ゆいしげ</small>	準優勝 加藤 緑絆	六位 金田 緑和					
準優勝 小橋 正枝							

令和4年度昇格者並びに新緑号取得者



六段
廣瀬 緑 瓊



六段
秦 緑 杲



六段
片山 緑 都



七段
島田 緑 皓



七段上席師範
西岡 緑 優



五段
吉村 緑 樹



六段
岡本 緑 洋



六段
團 緑 佳



六段
有宗 緑 滯



六段
舟根 緑 朱



五段
小柳 緑 俊



五段
吉川 緑 誠



五段
安田 緑 啓



五段
柳井 緑 鈴



五段
神崎 緑 全

〈初段〉		〈二段〉		〈三段〉		〈四段〉		雅号	本名	支部	担当師範												
中川美崇	神田和晃	山本敦翔	平山維遙	山田智鋒	久保田武晃	藤田慶晃	半田結春	太田勝鋒	辻 栄鋒	野田陽鴻	渡部翔翔	小橋月翔	野田侑郷	平井燕翔	松井美晃	吉田恕秀	山本駿春	西本華叡	細越保遙	角田弘秀	高浪希崇	安岡節秀	
美枝子	和子	勝彦	維重	智一	武治	慶一郎	登美子	和子	まつえ	陽子	玲子	正枝	侑吾	捷夫	美千子	如男	宗人	朱里	保	昭弘	信子	節也	
菜の花	曙	十三北野	京口	百楽	曙	曙	服部ひびき	百楽	百楽	新北野	南方	十三北野	城内	クローバー	曙	玉造	服部ひびき	川西	京口	玉造	菜の花	玉造	
箕輪緑崇	宮原緑晃	渡辺緑翔	松本緑遙	木下緑鋒	宮原緑晃	宮原緑晃	西岡緑春	木下緑鋒	木下緑鋒	浦田緑鴻	渡辺緑翔	渡辺緑翔	宮内緑郷	渡辺緑翔	宮原緑晃	津村緑秀	西岡緑春	井内緑叡	松本緑遙	津村緑秀	箕輪緑崇	津村緑秀	

これからも

川西支部◇島田緑皓

緑崇流に入会し詩吟を始めて約三十年、この度七段に昇段させていただきました。高校の漢文の授業中は居眠りばかりでテストは赤点すれすれの成績だった私がこれ程永く続けてこられたのは、丁寧な指導してくださる井内緑叡先生、やさしく接して頂ける各支部の皆様に出会えたからにほかなりません。

大会ではなかなか普段通りの吟が出来ずにおりましたが、最近やっと少し落ち着いて吟じられるようになってきました。入会した頃、上手になるには「二にも二にも練習。一吟千回、場慣れすること」と指導して頂いた言葉を思い出して気持ちを新たにしているところです。

私もいよいよ「脳活」の年代になってきました。健康に過ごすには「声を出す・笑う・運動する」ことだと言われます。今後も健康のためにも詩吟を続けたいと思います。

六段を載いて

新森支部◇廣瀬緑環

「光陰矢の如し」と言いますが、友達に誘われて新森支部に入会し、あ

れよあれよと思う内に、もう六段を戴く時となり、私自身が大変驚いております。

赤阪緑麗先生から松野緑焔先生と熱心にご指導いただき、先輩に引つ張られ、仲間達に助けられ、また、緑崇流の皆様から暖かいお声をかけて頂き、お陰様で今日まで続ける事が出来ました。

吟は難しく、なかなか思うように進みませんが、楽しく過ごせております事、感謝申し上げます。

六段を戴きましたのに、できない、わからないと自分を甘やかしている場合じゃないと、今更ながら自覚しました。これからは襟を正して、しっかり頑張ってみようと思います。今後共よろしくご指導下さい。ありがとうございます。

六段を載いて

十三北野支部◇團 緑佳

この度は、六段に昇格させて頂き、有難うございました。肺が良くななく、健康の為に、会員にならせて頂きましたので、六段まで在籍するとは……？思ってもいませんでしたが、宗家箕輪緑崇先生を始め、渡辺緑翔先生、十三北野支部に在籍の浦田緑鴻先生、米田緑海先生、河田緑烽先生や先輩の方々のお陰だと、感謝致しております。

す。まだまだ吟は六段の器ではありませんが、宗家先生が何時も言われております「吟は厳しく、会は楽しく！」の如く、今、吟の仲間と居る事が本当に楽しく、嬉しい限りです。渡辺先生からは、もう八十歳になったから、健康第一！吟は第二！かな？と厳しく、そして優しく言われながら、ご指導を賜っております。本当に感謝です!!有難うございました。

今後共、宗家先生を始め、渡辺先生、諸先生の皆様のご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今回六段になられました皆様に、**ブラボー!!**

緑号を載いて

ゆる友支部◇吉村緑樹

この度、緑号を戴き有難うございます。詩吟を始めて(平成二十二年)すでに十二年。本来ならば投げ出ししている私ですが、渡辺緑翔先生をはじめ周囲の支えもあり、やっと先輩方に追いつけた様です。緑崇流吟士の皆さんは同世代の人と比べれば、大きな違いが分かります。常に腹より声を出し、舞台上上がる事で度胸も付き、精神的にも若々しく元気で、エネルギーで奇麗です。私は今年で喜寿になります。

先の発表で男性の平均寿命は八十一歳、女性は八十七歳でした。自分的にはまだ余裕が有り、元気で米寿まで頑張れるのではないかと前向きに考えています。

詩吟の習い始めは十三駅東側すぐ傍で、稽古終了は五時過ぎでした。当時から稽古場が四回変わり現在は新北野連合会館(淀川図書館二階)です。以前は鳴かず飛ばずで、今思うと練習後の反省会を楽しみに無欲恬淡と過ごしていました。(当時は、酒場のカウンターがテーブル代わりで夏場は大受けでした。)

今回緑号を載いて猛烈に意欲がわきました。まだ残っている詩吟寿命のある間に優勝を目標とします。

これからも見捨てずにお願います。

緑号を載いて

五領支部◇安田緑啓

この度は、緑啓の号を賜り、誠にありがとうございます。偏に井内緑叡先生を始め、五領支部の皆様、会員の方々のご指導の賜物と感謝しております。特に井内緑叡先生には未熟者の私を叱咤激励して、詩吟の初歩より、お教えいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、私が詩吟を知りましたのは、

遠く数十年前の昔に遡ります。就職して5年後、研修があり約一か月間で腹の底から、あらん限りの大きな声で詩吟をやってください。」との指示でした。そして自分自身で石川丈山作の富士山を吟詠されたのです。その事が強く印象に残っていたのかも知れません。私の胸に焼き付いていて忘れられませんでした。

定年退職時、詩吟をやってみたくてと思ったのはこのシーンがあったからかもしれません。老人クラブから五領支部に入会し、現在に至っています。

五領支部に入り十数年を経過しておりますが、中々上達せず、悶々としておりましたが、健康面では今年八十歳となり、老齢の仲間に入りましたが、気持ちは五十歳の年齢と思っております。今後、一層努力して参ります。

どうかよろしくお願い致します。



緑号を載いて

曙支部◇吉川緑誠

十数年前に宮原緑晃先生との出会いがあったて詩吟を学ぶ機会を得ました。今日まで挫折することなく学び続けることが出来ました。

偏に宮原緑晃先生の情熱のこもったご指導・ご鞭撻のお陰と教室の皆さんと共に切磋琢磨しながら学ぶことが出来た賜物と感謝の念で一杯です。

ここに至り緑号「緑誠」を頂戴することが出来ました。身に余る光栄です。「誠」は多くの素晴らしい意味が込められており、その名に恥じぬ様、精進して参ります。

ある時、先生から緑号まで頑張ろうと言われました。その時は、緑号の持つ意味が分からなかったのですが今、先生との約束が果たされたのか達成感で満ちております。

振り返れば最初に出会った吟題が「九月十三夜陣中の作」でした。勇壮な詩に感動しました。詩吟の持つ魅力の一つに歴史上の出来事や人物にも興味を広がり自分で調べたりと楽しみが増えることにあります。

これからも健康面に留意し、体力が続く限り吟詠することを楽しみたいと思っております。

今後とも宜しくご指導のほどお願い致します。

緑号を載いて

曙支部◇小柳緑俊

この度は緑号を戴き誠にありがとうございます。又あらためてご指導頂いてます宮原緑晃先生に心よりお礼申し上げます。

私の緑水吟詠会入会の経緯は約十年前に或るサークルで知った宮原先生のご自宅に電話をしたのが始まりです。

ご指導を仰ぐことになった月2回の練習会では、先ず宮原先生の素晴らしい吟に聞き入ってしまう自分の発声を忘れてしまう状態でした。

練習会では常々「声・節・態度」に注意することを基本に作詩者の気持ちや場面を良く理解して吟ずることなどのご指導を頂いております。私は未だに基本を会得できずに高嶺の麓をさま迷っている状態です。

練習会では宮原先生の厳しいご指導の中にも丁寧で優しい励ましを頂きながら生徒の皆さんと明るく楽しい雰囲気の中で練習に励んでいます。

先述の通り緑水吟詠会に入会し十年経っていますが他の支部の方々に殆ど存じていません。この度、緑号を戴いたことを契機に「みどりの絆」を念頭に精進したいと思っております。

今後とも吟詠の練習、修養に努めますので皆様のご指導をお願い致します。

ます。

名刺交換会

令和四年度 上位昇段・昇格者及び新緑号名刺交換会が令和四年七月二十六日(火) 十三福社会館で午後八時より行われました。新たに開設した東京支部はリモートでの参加となりました。



第47回 府連出場者決定兼一般之部競吟大会

高槻現代劇場 令和5年1月7日(土)

優 勝	福本 信	入賞	奥村雅生
準優勝	島田喜久子	入賞	垂水時子
準々優勝	神崎安雅	入賞	廣瀬さち子
四位	西部重世	入賞	安岡節也
五位	徳岡知江子	入賞	若杉アサカ
上位入賞	前之園 明	入賞	森井澄子
上位入賞	辻 悦子	入賞	渡部玲子
上位入賞	松永幸代		
上位入賞	片山美都子		



第47回 緑号・師範之部競吟大会

高槻現代劇場 令和5年2月12日(日)



（写真右より）
宮内 緑 郷
松本 緑 遥
米田 緑 海
木下 緑 鋒
松野 緑 煽
井内 緑 叡
福本 緑 景
西岡 緑 春
松村 緑 圭
中山 緑 山

【緑号・師範之部 競吟大会成績】
優 勝 加藤 緑 絆
準優勝 加賀山 緑 豊
準々優勝 島田 緑 皓
四位 松永 緑 永
五位 福本 緑 邦
上位入賞 徳岡 緑 江
上位入賞 石川 緑 誓
上位入賞 島田 緑 聲
上位入賞 西部 緑 楠
上位入賞 辻 緑 鯉

（府連二部出場資格者）

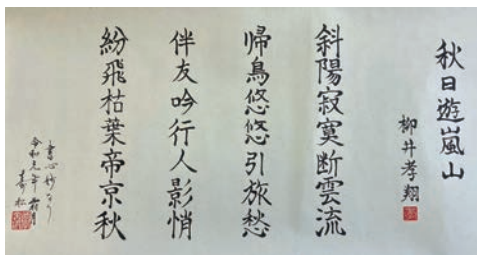
シリーズ「多輝多芸」 緑号 拝名に想う

南方支部◇柳井 緑 鈴

賀緑崇流緑号 拝名
春秋蛩雪一巡過ぐ
拝受す雅号夢自ずから多し
訓誘の師儒正律を訓え
先賢を称慕して更に高哦せん

私は今、南方支部に所属し、今年緑号を拝名しました。私が入会しましたのは十二年前ゆる友支部の辻緑芳姉からのお誘いでした。ゆる友支部は私の本籍地であり、心のふる里です。

入会して段位というものが、将来五段に昇段すると緑号を拝名できると知りましたが、「それは無理」それまで続くとは思っていませんでした。吟を始めてしばらくして漢詩を習いに行き、また自作の詩をいつか人に披露する時が来るかと思いい、書道も習うことになりました。漢詩も書も偶然、吟と繋がっていました。漢詩の先生は関西吟詩の最古参で生徒の作った詩を即興で吟に出来る人で、こんな楽しみ方も有ると知りました。書の話が出来るのでうれしく思っています。こんな充実した毎日が送れるのも十二年前に吟に誘っていただいた辻姉のおかげと感謝しています。



天王山ハイキング

みつわ支部◇宮原緑晃

令和4年5月15日(日)

阪急電鉄西山天王山駅に十時に集合

宗家、渡辺、宮原、黒野、福本、島田(聲)、中野、加藤、神崎の総勢九名で出発。

しばらく住宅街を進み天王山登山口の標識から入山するといきなり急こう配で健脚者でないとい登れないような道でした。最初に出会ったのが奈良時代に農耕の守り神として創建されたという小倉神社でした。ここで一息ついて続けて急こう配の登山道を全員が汗をかきながら道標に従って更に急な傾斜の多い道を進むと急に開けた広場に到達しました。



そこが天王山山頂(二百七十・四メートル)でした。山頂には測量用三角点はありませんが、

広場になっていて休憩場所として最適で、ここで昼食を取ることにしました。それにしても良くぞ急傾斜の道を参加者が全員弱音を吐かず登り切ったものだと感心しました。



天下分け目の天王山の戦は天王山の麓、山崎の合戦で明智光秀に勝利した羽柴秀吉が信長の後継者となる天下分け目の地であり感慨深いものがありました。昼食後しばらく休憩してから下山道に従って急斜面な道をゆっくりと進み「旗立松展望台」で大阪平野、京都盆地を望み、本能寺を全員で合吟し古戦場の厳しさを感じ取ることが出来ました。

天王山を下りて又、出発地点の西山天王山駅まで歩く途中に「ねじりまんぼ」という明治時代の鉄道を通すために造られたアーチ部



分が煉瓦の珍しいトンネルを通り西山天王山駅から二つ目の水無瀬駅で下車し、今は無き「桜井の駅」、正成と正行が決別した場所「楠公訣子」を合吟し正成の忠義心を強く心に留めました。



最後は茨木の「こ苦労さん会」で今日一日で発汗した水分をビールで補給し、全員離脱者もなく楽しかった一日を終えました。



秋のハイキング 摂津峡

南方支部◇神崎緑全

令和4年11月20日(日)

秋の摂津峡ハイキングと言いたいところですが残念ながら当日は雨模様でしたので摂津峡の美人の湯、祥風苑で温泉と食事会となりました。JR高槻駅で10時45分に集合して祥風苑の可愛いレトロ調の送迎バスで美人の湯へ直行しました。先着組・渡辺緑翔先生をはじめ9名の方は1時間も前に行っておられました。さぞ、美人になられた事でしょう。後発の皆様も温泉で日頃のストレス・色々な筋肉痛等、身も心もほぐれたことでしょう。さて、温泉の後は楽しい食事会です。今回は雨模様にもかかわらず、総勢24名の参加者で楽しく食事会をすることが出来ました。皆様の乾杯から、ワイワイ・ガヤガヤ、話の花が咲きました。そして皆様の顔が紅葉のように染まっています。楽しい一日を過ごすことが出来



た。楽しい一日を過ごすことが出来

て、また、温泉で英気を養うことが出来て本当に良かったと思います。宗家箕輪緑崇先生からご厚志を頂きましてありがとうございます。

次の企画も頑張っていきたいと思います。是非ともよろしくお願いいたします。後日、摂津峽に行きましたところ見事な紅葉でした。次は皆様とハイキングがしたいです。



追伸

次の日曜日、祥風苑に忘れ物があったので宮原緑晃先生、井内緑叡先生、福本緑景先生、田野さんとハイキングをしました。紅葉が奇麗でした！



第二十九回 渡辺緑翔門下温習会

日時 令和4年12月11日(日)
場所 ホテルプラザオースカー1階「雅の間」
玉造支部◇田中美矢子

コロナウイルスが流行し、世の中自粛、自粛と窮屈さを感じる生活が長く続きましたが、「行動制限のない」年末となった令和4年12月11日、第29回渡辺緑翔門下温習会が開催され

ました。

青野緑飛さんの開会の辞で幕を開けた温習会。渡辺緑翔先生からの「良い思い出が作れるように」というお言葉の下コロナ対策を万全に渡辺緑翔門下一同、日頃の練習の成果を披露いたしました。

本部講師吟詠では、いつもは指導してくださっている先生方が次々と吟じられていきま

す。その様子はまるでコンサートのようなひと時。そして渡辺先生、ご来賓の先生方、宗家箕輪



緑崇先生が吟じられ会場は益々贅沢な空間となりました。吟詠後、舞台上では会員による即興漫才や各支部による出し物など、コロナウイルス対策を実施しながらではありますが、ほんの少し普通の生活が戻りつつあることを実感できました。

宗家先生のユーモア溢れるお話の中にサッカーワールドカップで長友選手が叫んでいた「ブラボー!!」と言う時事ネタもバッチリ!その後各



テーブルで「ブラボー!!」が流行ったことは言うまでもありません。

「吟は厳しく、会は楽しく。」

たくさん笑顔が溢れる温習会となりました。



第四十六回 全国吟詠コンクール
大阪府北連合大会

日時 令和4年4月3日(日)
場所 池田市民文化会館

一般三部(優勝)

みつわ支部◇松野節子



この度は、大阪府北連合大会にて優勝させて頂き、誠にありがとうございました。(まだ、信じられない気持ちでいっぱいです。)

宗家箕輪緑宗先生を始め、諸先生方、渡辺緑翔先生の温かい熱心なご指導の陰だと感謝しております。

昨年までは、声が出にくく、息切れして、思い通りに歌えず、本数を下げての練習、大変ご心配とご迷惑をおかけしました。新森の皆様、吟の仲間、家族には、苦しい時、励ましと幾度となく勇気づけられて支えてもらい、このような喜びを与えて頂いた事を嬉しく思います。最後にになりましたが「故赤坂緑麗先生」に良い報告が出来ました。

これからも、健康に留意し、今後共努力して参りたいと思っております。

第十二回 大阪府詩吟連盟シニア・シニア
燦々優勝者決定詩吟大会

日時 令和4年5月29日(日)
場所 高槻現代劇場

シニアの部(優勝)

淡路トマト支部◇石川洋子



この度は第十二回シニア・シニア燦々優勝者決定詩吟大会のシニアの部の優勝を戴き有難うございました。

渡辺緑翔先生の日々のご指導と、宗家箕輪緑宗先生の助言を頂き安心して吟じることが出来ました。皆様が私のおそばに心を寄せて頂いたことに感謝申し上げます。

七十九才にして初めてシニアの大会に挑戦させて頂き、発表の時「優勝石川さん」の声にびっくりでした。身に余るたくさん先生の方からお声をかけて頂き、只々、感謝と申し訳なきでいっぱいになりました。お役に立てないことばかりで心苦しいですが、自分の体調に気を付けながら、吟と出会った時の感動を忘れることなく、私に出来る吟を目指して頑張つて参ります。

少しでも迷惑をおかけしない様に心掛けて皆さんと楽しく練習に励みます。ありがとうございました。

第五十回 高槻市吟剣詩舞道
決勝大会

日時 令和4年7月18日(月・祝)
場所 高槻現代劇場 文化ホール3階

独吟の部 三部(優勝)

松原支部◇片山美都子



この度、優勝という栄えある賞を戴きました。第五十回という節目の年でもあり七月に決勝大会が行われた後、十一月に創立五十周年記念大会が中ホールで開催され、優勝者吟詠のコーナーがありました。七月から十一月までの四か月間の猶予があり、その間、その日の為の練習を始めました。渡辺緑翔先生から「せつかく点を入れてくれた先生方から失望されないように吟じないとね」と、プレッシャーがかかってきました。お稽古の時も、前の人の声に、その都度、引きずられて毎回音程が定まらずその上、フアからミにも下がらず散々な目に…。「ああ

!!こんなことなら、いつそ何も無かった事にしたい」「ほな返しておいで」「ええ!!」「百回も二百回も、もっと歌って言えることやで」私なりに練習はしたものの当日はやはり最後「ヒーヒー声」になり、情けないことに。

「嬉しい!!」と思えたのはあの時、名前を呼ばれた瞬間だけでした。自分では、練習していると思っていたけれど真剣にはなっていないなかつたと、今ほんの少し分かつたと思えます。今年八十歳になり、あと何年出来るかわかりませんが、健康に気を付けて、緑宗流の皆様方と、この先、よろしくお願い致します。

第五十回 高槻市吟剣詩舞道
決勝大会

日時 令和4年7月18日(月・祝)
場所 高槻現代劇場レセプションホール

連吟の部(優勝)

クローバー支部◇木下真次
京口支部◇細越 保



この度、表記の大会に於きまして「連吟の部」優勝という栄誉を戴きました。十数年前に松本緑遙先生と巡り合い緑崇流に入会させて頂きました。木下緑鋒先生とは本数も一緒ということで連吟させて頂きました。

松本先生、木下先生、亡き辻先生のご指導のお陰とうれしく思っております。木下先生と連吟が出来るのも最後（木下先生が師範になられたので）という事も有り一生懸命練習をして参りました。諸先生方・諸先輩方の皆様のお陰と思えます。

緑崇流の皆様は良い方ばかりで吟が出来るのが楽しい限りです。今後は杖を頼りに頑張つて参ります。よろしくお願い申し上げます。

(細越記)

「高槻市吟剣詩舞道連盟 創立五十周年記念大会を終えて」

高槻市吟剣詩舞道連盟会長 宮原緑晃

令和四年十一月十三日(日) 高槻市現代劇場文化ホール中ホールに於いて高槻市吟剣詩舞道連盟主催による創立五十周年記念大会が午前九時半より開催されました。

本大会には高槻市長を始め行政関係者並びに吟界から愛国詩吟連連盟理事

長矢間紫水先生を始め吟界の権威ある諸先生方のご臨席を賜り当日の予定を無事終了することが出来ました。

大会は午前中に約

三百八十名の会員による各流会派の吟が発表され、午後より前年度・本年度の高槻連盟競吟大会の吟士権者模範吟が披露され、続いて式典、構成吟、来賓吟詠、琵琶演奏が行われました。特に構成吟は、当連盟の名誉会長である小林美山先生が作詞された「高槻八景」を題材として「わが街・高槻」という構成・脚本が組み立てられ、ナレーターによる語り吟詠と剣詩舞と高槻の名所旧跡の映像を拡大スクリーンに写し構成吟としての効果を存分に発揮し、視聴者の皆さんから絶大な喝采を頂きました。

当会からの出演者はナレーターに井内緑叡先生、吟詠者に島田緑皓さん・松本緑遙先生・木下緑鋒先生・宮内緑郷先生の皆さんが熱吟を披露しました。その後、来賓吟詠が終わり、最後



の演目として筑前琵琶奏者、重要無形文化財保持者である奥村旭翠先生の熱の入った「那須与一」の琵琶演奏が約二十五分間行われ記念大会のメインイベントにふさわしい行事となり、大喝采の内に丁度予定通りの時刻に終了しました。



この記念大会を実施するに当たり、会長として最初に思ったことは、高槻連盟五十六流会派ある会の意見をどのようになんとめるかが、最重要と考え、二年前から実行委員会を立ち上げ各流会派から代表者の委員を選出し延べ十五回の会議を重ねた結果、約三百八十人の会員全員が喜んで参加してくれた大会が出来た事は大きな成果であったと思えました。

何事も大きな事業をする時は、事前には充分な意見交換を重ね実施することの大切さを強く実感した次第です。

新支部紹介

東京支部

担当講師 西岡緑優

はじめまして。東京支部です。

令和3年6月に東京に拠点を移し、令和4年7月、宗家先生のお許しをいただき、東京支部を開設させていただきました。

とはいえ、まだ、会員は家族のみ、自宅でお稽古をしている状況で、これからどのようにに会員様を増やしていくかが課題です。

幸い、自宅には、防音室がありますので、心ゆくまでお稽古ができます。狭いですが、スピーカーつきのマイク・マイクスタンド・譜面台も完備しております。

これらを活用し、オンラインレッスンを導入したいと考えております。

宗家先生をはじめ諸先生方にアドバイスをいただきながら、遠隔ながらも存在感のある東京支部を目指し邁進していく所存でございます。

これからどうぞ宜しくお願い申し上げます。



ニュース東西南北

大会記録

〈大阪府吟剣詩舞道総連盟〉

第46回全国吟詠コンクール大阪府北連合大会

一般二部

〈上位入賞〉森井澄子

一般三部

〈決勝進出〉優勝 松野節子

準優勝 加賀山 豊

準々優勝 松本八重子

4位 石川洋子 8位 島田久美

〈上位入賞〉松永幸代・奥村雅生・福本侑

米田宇一・垂水時子・若杉アサカ

神谷啓子・吉村昌樹・島田喜久子

中山孝彦・福本早苗

宮内幸夫・辻悦子・田中紀子

神崎安雅・西岡悦子・金田和彦

安田厚子・前之園明

第46回全国吟詠コンクール大阪府大会

一般一部

〈上位入賞〉6位 加藤恭子

一般三部

〈決勝進出〉13位 石川洋子

〈上位入賞〉西岡悦子・島田久美

全国吟詠コンクール近畿決勝大会 開催中止

〈大阪府詩吟連盟〉

第12回ジュニア・シニア燦々優勝者決定詩吟大会

〈決勝進出〉優勝 石川洋子

〈上位入賞〉中山孝彦・垂水時子

〈大阪府詩吟連盟〉

第64回吟士権者決定詩吟大会

決勝大会

一部〈決勝進出〉15位 石川洋子

〈上位入賞〉加藤恭子・松永幸代

島田喜久子・津村真紀

(以上愛連へ)

二部〈決勝進出〉7位 西岡緑春

〈上位入賞〉宮内緑郷 (以上愛連へ)

〈高槻市吟剣詩舞道連盟〉

第50回高槻市吟剣詩舞道決勝大会

二部〈決勝〉4位 前之園明

三部〈決勝〉優勝 片山美都子

連吟 優勝 木下真次・細越保

第14回愛国詩吟総連盟ジュニア・シニア燦々

優勝者決定詩吟大会

〈決勝〉準優勝 石川洋子

〈愛国詩吟総連盟〉

第77回第一部(一般の部)吟士権者決定詩吟大会

〈入賞〉津村真紀

〈淀川・東淀川詩吟連盟〉

第47回吟士権者決定詩吟大会

一部 3位 渡部玲子

三部〈決勝〉5位 安田厚子

〈上位入賞〉辻悦子・若杉アサカ

四部〈上位入賞〉垂水時子

〈大阪府総連盟〉

第2回プラチナ吟詠コンクール

〈入賞〉中山孝彦・奥村雅生・垂水時子

福本早苗

〈日本クラウン株式会社〉

第49回クラウン全国吟詠コンクール

近畿地区大会

〈入賞〉松永幸代

第50回全国少壮吟詠家審査コンクール

決選大会

〈入選〉西岡佐智世

昨年、愛連シニア大会に於いて準優勝致しましたので、この度の愛連吟詠



淡路トマト支部◇石川洋子

日時 令和5年3月5日(日)
場所 尼崎市総合文化センター
あましんアルカイックホール

第十三回愛連吟詠フェスティバル

〈当会より出演者〉
渡辺緑翔 西岡緑春 宮原緑晃
加藤緑絆 宮内緑郷
(敬称略 出演順)



日時 令和4年8月21日(日)
場所 尼崎市総合文化センター
あましんアルカイックホール

第35回 関西クラウン吟詠家 ジョイントリサイタル

【編集後記】
新学期から学校でマスクは不要になるなど
コロナ対策が緩和され、ようやく日常が戻り
つつある頃、会員の皆様のご協力を得て、嬉
しいニュース満載の会報が出来上がりました。
麗らかな春日、楽しく読んでいただければ幸
いでです。(徳岡緑江)

西岡佐智世さんが3回目の入選をさ
れ、少壮吟士候補となりました。
誠にありがとうございます。



日時 令和5年3月12日(日)
場所 ニッショーホール

速報!!少壮吟士候補誕生!! 第五十回全国少壮吟詠家審査 コンクール決選大会

フエスティバルに出場の機会を頂きました。
最初で最後の舞台上に立たせて頂
くことを決めました。
当日は不安の中で、やっと座席にた
どり着き、息を整える暇もなく舞台の
確認などを行って、発声練習もしない
まま、やっとの思いで吟じることが出来
ました。
舞台裏の移動もあり、お世話になっ
た先生方に感謝でいっぱいです。
午後からの構成吟の先生方の詩仙・
詩聖・名吟抄を聴かせて頂き大変に感
動させていただきました。